

STAGE+を楽しむ(101)(HP 収載)  
—メシアン 《世の終わりのための四重奏曲》—

1. 始めに

前報(100)に引き続き、STAGE+のメシアンの《世の終わりのための四重奏曲》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、メシアンの《世の終わりのための四重奏曲》の演奏を選びました。

アリス=紗良・オットと仲間たちによる《世の終わりのための四重奏曲》

アンドリュー・ステーブルズ監督

収録日: 2023年6月23日

新約聖書「ヨハネの黙示録」第十章から曲想を得た《世の終わりのための四重奏曲》は、メシアンの数少ない室内楽作品で、第二次世界大戦中にドイツ軍の捕虜となっていた時期に書かれ、初演メンバーが当時の収容所仲間であったことでも知られています。ここではアリス=紗良・オットのピアノを中心に、バイエルン放送交響楽団のコンサートマスターであるトーマス・ライフ、同楽団チェロ奏者のセバスティアン・クリンガー、そしてSWR交響楽団のクラリネット奏者セバスティアン・マンツという、オットの親しい音楽家たちによる鮮烈な編成でお届けします。アンドリュー・ステーブルズ監督によって、作曲中のメシアンの幻覚が見えるかのような体験が可能な映像にも注目です。

ソリスト:

アリス=紗良・オット (ピアノ)、セバスティアン・クリンガー (チェロ)、セバスティアン・マンツ (クラリネット)、トーマス・ライフ (ヴァイオリン)

曲目:

オリヴィエ・メシアン 《世の終わりのための四重奏曲》



### 3. 試聴の経過

「ヨハネの黙示録」から曲想を得たという曲で、不思議な世界に誘われるような感覚を覚えます。

アリス=紗良・オットのピアノを中心にチェロ、クラリネット、ヴァイオリンが、神秘的な音楽を展開していきます。無観客のスタディオのような環境で、曲の展開に合わせての凝った映像をともなって演奏がされています。

チェロやクラリネットやヴァイオリンが特異な奏法でリアルな音の表現をしています。





#### 4. まとめ

LAN アクライザーの効果により、不思議な感覚の音楽がリアルに演奏されているのが伝わってきました。

以上